



YOKOHAMA CIVIC ART GALLERY
横浜市民ギャラリー

アート ヨコハマ

ART YOKOHAMA

vol. 50

横浜市民ギャラリー情報誌
2013. 02 | 03

ありがとう！
横浜市民ギャラリー
@ 関内



<http://www.yaf.or.jp/ycag/>

横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム

「学校プログラム」では、プロのアーティストが直接学校に出向きます。横浜市内の学校、芸術文化団体、アーティスト、企業、地域住民、行政等が、連携・協働してこのプログラムに取り組んでいます。

マイ・キャラでコマ撮りアニメーションをつくろう

実施日：2012年11月6日、15日、16日 全3日間

実施校：末吉小学校(鶴見区) 対象：5年生(4クラス) 149人

アーティスト：布山タルト(東京藝術大学大学院准教授)

1日目のプレ・レクチャーでは、布山氏から「アニメ」と「アニメーション」の違いについてのお話や、「愉快的百面相」(1906年)や「ファンタスマゴリー」(1908年)など、アニメーションの歴史を語る上で欠かすことのできない作品の紹介がありました。また、布山氏が独自に開発したコマ撮りアニメーション専用アプリKOMAKOMA(コマコマ)の実演と解説を行いました。2日目以降は、クラスごとに図工の時間に制作した紙製の“マイ・キャラクター”を持ち寄って、グループごとに協力しながら、KOMAKOMAを使って最大18コマ、約3秒のアニメーションづくりに挑戦しました。授業は子どもたちが制作した作品の上映会と布山氏による講評で締めくくりました。アニメーション制作の体験を通して、主体的に映像に関わるきっかけとなる楽しいプログラムでした。



映画について知る—ゾートロープ制作+編集ゲーム

実施日：2012年12月5日、6日 全2日間

実施校：小田中学校(金沢区) 対象：3年生(4クラス) 120人

アーティスト：SHIMURAbros(映像作家)

前半はSHIMURAbros(ユカ&ケンタロウ)氏の作品紹介を行いながら、映画が大勢の人の力と周到な準備によってつくられることや、国内外での制作・発表経験などが語られました。また、映画の成り立ちや歴史について、フリップブックや映画用フィルムを手に取りながらの説明がありました。後半は映画の原理を理解するため、12のフレームに簡単なイラストを描き、ゾートロープ*の土台にセットして、イラストが動いて見えることを確認しました。その後、グループごとに映画のトレーラーから自由にストーリーを編集するゲームなどで、自分とクラスメートの視点、そしてそれらのランダムな組み合わせによる偶然の面白さを体験しました。普段私たちが「見えていない」ものを視覚化し、新しいヴィジョンを提示するアーティストならではの授業でした。

*ゾートロープ(回転のぞき絵)は、19世紀に発明された装置。細い縦のスリットと回転によって「見える」部分と「見えない」部分が交互に現れ、残像現象を生み出す。



2012(平成24) 絵画教室「卒業生作品展」



市民ギャラリーの絵画教室は、初めて絵筆を持つ人も気軽に参加でき、経験豊富な先生が一人ひとり丁寧に指導し、絵を描く楽しさを体験できる教室です。4月の開講から約1年間学んできた成果を発表する「卒業生作品展」を開催します。油彩、水彩等の作品が教室ごとに展示され、先生方の作品も出品されます。みなさんの力作が揃う、移転を前にした市民ギャラリーのフィナーレを飾る展覧会ですので、是非観に来てください。

会期 3月6日(水)～3月11日(月)
会場 3階A室・B室 入場無料
時間 10:00～18:00
※入場は17:45まで
初日は14:00開館
最終日は16:00閉館

横浜市民ギャラリー 休館・移転のお知らせ

現横浜市民ギャラリー(中区万代町)は2013(平成25)年3月11日(月)をもって閉館し、一時休館を経て、2014(平成26)年秋口に新ギャラリー(西区宮崎町)の開館を予定しています。

新ギャラリーのご案内

横浜市区宮崎町26-1 JR・市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩約10分
[オープン] 2014(平成26)年秋口

新ギャラリー計画の考え方

- ・明るく開放的なエントランス空間
- ・可変性を持ち多様な展示に対応できる可動展示壁
- ・単館施設としてのメリットを生かした休憩スペースの確保
- ・大型作品の展示に対応。搬出入に配慮した大型エレベーターの新設
- ・ギャラリー敷地内に駐車場を設置

展示室面積及び天井高(案)

※2012年9月26日実測

	現市民ギャラリー	新市民ギャラリー
展示室面積	1,403㎡ 実測値※ 1296.43㎡	約1,200㎡
壁面長さ(最大)	483m 実測値 ※471m	約520m(可動展示壁を含む)
天井高	2.4m～5.6m	2.8m～4.0m



上：改修前 旧いせやま会館の正面入口
(現在の様子)
下：新ギャラリー展示室
(予想図)



横浜市内 アート・カルチャー情報



公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が運営する文化施設の情報をえりすぐってお届けします。

横浜美術館 2013年1月26日(土)～3月24日(日)

ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家

今なお、絶大な人気を誇る写真家のひとりロバート・キャパが、二人の写真家によって創り出された架空の写真家であったという事実は、あまり知られていません。キャパの作品に加え、女性報道写真家ゲルダ・タローの作品を初公開し、写真作品と資料によって二人の生涯と活動の軌跡を辿ります。

開館時間 10:00～18:00(入場は17:30まで) 休館日 木曜日(1月31日は開館)

入場料 一般：1,100円/大学・高校生：700円/中学生：400円/小学生以下無料

お問合せ 〒220-0012 横浜市区宮崎町みなとみらい3-4-1 TEL 045-221-0300
ホームページ <http://www.yaf.or.jp/yma/>

横浜市民ギャラリーあざみ野 2013年2月2日(土)～2月24日(日)

写真家 石川真生—沖縄を撮る

+横浜市民所蔵カメラ・写真コレクション展 アメリカ写真の黎明

一貫して沖縄を撮り続ける写真家・石川真生の個展では、原点であるデビュー作《熱き日々 in オキナワ》と初公開作品の約50点を展示します。「アメリカ写真の黎明」では、約300点の写真、カメラ、関連資料の展示を通して、19世紀のアメリカが写真とどのように出会い、社会を視覚化していったかを探ります。

開館時間 10:00～18:00 休館日 会期中無休

入場料 無料 会場 横浜市民ギャラリーあざみ野展示室1・2

お問合せ 〒225-0012 横浜市区青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内
TEL 045-910-5656 ホームページ <http://artazamino.jp/>



ゲルダ・タロー
《ロバート・キャパ、セゴビア戦線》1937年
ゼラチン・シルバー・プリント ICP 蔵 © ICP



石川真生《熱き日々 in オキナワ》
1975-1977年
ゼラチン・シルバー・プリント

収蔵作品 紹介

横浜市民ギャラリーの コレクションから、 毎号1点で紹介します

1978年、大通り公園完成を記念し、横浜市民ギャラリーで「ヨコハマ漫画フェスティバル」が開催されました。赤塚不二雄(1935-2008)、やなせたかし(1919年生まれ)など、活躍中の漫画家やイラストレーター40名が横浜を描いた76点を出品。出品作の大半はコマ割りをせず1つの場面で完結するイラスト形式のものでした。柳原良平は8点出品、本作はそのうちの1点で、大通り公園の東端、教育文化センター周辺の「石の広場」にあった野外ステージ(2009年撤去)を正面から捉えたものです。明快な配色がなされた大胆な構図に、おなじみのタッチで描かれた男女が親しみやすさを与えています。手前に描かれているのはロダンの彫刻《瞑想》(1885年)です。1931年東京生まれ横浜在住の柳原は、京都市立美術大学卒業後、寿屋(現サントリー)に入社、宣伝部に所属し、1958年にトリスウィスキーのCMのために描いたイメージキャラクター、アンクルトリスが一躍人気となりました。1977年、横浜文化賞(文化活動)受賞。船や港に関する作品、著述で知られています。



柳原良平《大通り公園》

1978年

ポスターカラー・紙 102.0×73.0cm

展覧会イベント報告

ニューアート展NEXT 2012 動く絵、描かれる時間：Phantasmagoria

ファンタスマゴリア



現代に生きる私たちの日常生活の隅々に浸透している「映像」—その役割と機能は、人びとのコミュニケーションのあり方に変革を及ぼしているばかりか、私たち自身の機能を拡張し、感覚を押し広げてきたともいえます。この展覧会は、映像表現の多様な展開の一端を紹介するものとして開催しました。横浜市民ギャラリーでは映像をテーマとした展覧会は初の試みであり、関内の地で開催する「ニューアート展NEXT」の最終回となりました。本展で取り上げたのは、横浜を拠点に活動する新進気鋭の映像作家、金澤麻由子とSHIMURAbrosの2組です。いずれも、初公開となる新作映像インスタレーションをはじめ、アニメーションの原画、映画のなかの時間を扱った立体、絵本の挿絵原画など計13件42点を展示し、入場無料で開催しました。出品作のうち約半数(インスタレーションを含む6件9点)が意欲的な新作であり、作家の次なるステップを予見させる仕上がりとなりました。また、温かみのあるドローイングアニメーションにインタラクティブな要素を加えた金澤麻由子と、映画を抽象化し、洗練された造形を得意とするSHIMURAbrosとの好対照は見所のひとつであり、鑑賞者の興味の幅を広げることにつながりました。あわせて、本展では金澤麻由子の新作《時の間》制作にあたり、事前にボランティアを募集し、ワークショップ形式で作家と一緒にギャラリーでの滞在制作を行いました。会期中には、アンケート回収を促進する広報ボランティア活動も行いました。



(左から)1階展示室入口／アーティストトーク(左・SHIMURAbros氏)／アーティストトーク(中央・金澤麻由子氏)／2階展示室

事業報告

主催：横浜市民ギャラリー(公益財団法人横浜市民芸術文化振興財団)
後援：横浜市文化観光局、神奈川新聞社、tvk、RFラジオ日本、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会
助成：公益財団法人花王芸術・科学財団
協賛：アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズ、株式会社リコー、住友電気工業株式会社、ニューオータニ横浜、横浜サンミラー株式会社、横浜美術大学
協力：神奈川県民ホール
会期：2012年9月28日(金)～10月17日(水)[20日間(休館日なし)]
会場：1階・2階展示室
出品作家：金澤麻由子、SHIMURAbros
出品総数：13件42点

入場者数：4,036名
広報印刷物：チラシ(A4両面)30,000部、ポスター(B3)1,500部
参加ボランティア：のべ49名(滞在制作補助、会期中アンケート)

関連イベント

1. 記念レクチャー
講師：港千尋氏[写真家／多摩美術大学教授]
10月2日(火)14:00～15:30 参加者16名
2. アーティストトーク(出品作家によるギャラリートーク)
10月6日(土)14:00～15:30 参加者42名
3. 学芸員によるギャラリートーク
10月7日(土)、14日(土)14:00～14:30 参加者計15名

子ども向け造形プログラム

『2012年度ハマキッズ・アートクラブ』

子どもたちの創造力を育み、集中力や協調性を養う、子どもが主役の造形教室です。

チャレンジ／アーティスト／多文化共生プログラム

ティンガティンガに挑戦！

日時：9月9日(日)13:30～16:30 対象：小学3～6年生
参加者数：29名 参加費：1,500円
講師：マイケル・レハム(ティンガティンガ画家) 井上真悠子(通訳)
協力：あーすぶらざ



アフリカの風景や動物をダイナミックかつ色鮮やかに表現。

ティンガティンガはタンザニアのティンガティンガさんが始めた絵の描き方。講師は世界にこの描き方を紹介しているマイケルさん。アフリカ独特の動物や鳥を題材に、色鮮やかな独自の技法を指導してくれました。子ども達はマイケルさんのやさしい指導で、どんどん描き進め、ひょう、きりん、鳥等の素敵な絵が次々出来上がっていました。

レポーター 鈴木 通弘

横浜市民ギャラリーの歴史を振り返る

第3回 市民ギャラリーと建物

設計者・前川國男(1905-1986)

横浜市教育文化センター^(※1)を設計したのは、戦前・戦後の日本近代建築をリードした建築家・前川國男です。前川は日露戦争最中の1905(明治38)年新潟市生まれ。父・貫一は内務省土木技師(勅任官)、母・菊枝は弘前の出身でした。1928(昭和3)年、東京帝国大学(現・東京大学)工学部建築学科の卒業式の夜、当時国連事務局長としてパリにいた伯父を頼り、神戸、奉天(現・瀋陽)を経て長春からシベリア鉄道に乗ってパリへと向かい、日本人としては初めて^(※2)、のちに20世紀を代表する建築家のひとりとなるル・コルビュジエ(1887-1965)のアトリエで学びました。帰国後は、帝国ホテル建設のためフランク・ロイド・ライト(1867-1959)に伴って来日したアントニン・レーモンド(1888-1976)の建築設計事務所に入所、1935(昭和10)年には前川國男建築設計事務所を設立し、以後1986(昭和61)年に81歳で没するまで、建築家として活動を続けました。その仕事は、住宅や集合住宅などの居住施設の設計をはじめとして、オフィスビルや庁舎、学校や病院、図書館、音楽ホール、美術館などの文化施設に至るまで、多岐にわたっています。



前川國男(1983年)
撮影：廣田治雄
写真提供：前川建築設計事務所

建物の素材とディテール

…建築っていうのは、人生のはかなさに対する何らかの存在感を^{もと}めたい、というところに本当の意味があるんじゃないのかって思うんだ。 (中略) もしも建築が芸術であるならば、建築家っていうのは、骨身を砕いて存在感を^{もと}め続ける人間のことだよ (中略) そこに多くのひとたちとのコミュニケーションの絆があるんであってね。その一点を踏み外さなければ、独りよがりもまた避けられると思うんだけどね。 (中略) ディテールの意味も、要するにそこに帰着するんだよね。

前川國男『一建築家の信條』(※3)



上：建物正面の天井
左下：エントランスロビーの床 右下：外装

横浜市教育文化センターはいわば前川國男の後期作品です。建物を覆う存在感のあるタイルは、1200℃前後で焼成された炆器質^{せつき}タイルを使用しています。外壁、建物入口、エントランスロビーの床、階段など場所にあわせて、質感・色味のそれぞれ異なるタイルを選択しています。正面外観はエントランスロビーと連続した2階層分の吹抜け空間になっており、打込みタイルと打放しコンクリートの組み合わせを見ることができます。コンクリートの太い柱、2階のホールへと導く、やはり打放しコンクリートでできた師コルビュジエを思わせる三角形の階段部分と、そこに取り付けられた頑丈な木製の手すり、天井を見上げると筒状のモダンなペンダントライトが取り付けられていて、背景の天井部分が青く塗り分けられています。入口の型鋼サッシュで区切られた大きなガラス窓も印象的です。打放しコンクリートは、型枠の木目が残っている場所もあります。

コミュニケーション／多文化共生プログラム

いたずらハロウィンパーティー



日時：10月28日(日)13:30～16:00
対象：4～12歳 参加者数：29名
参加費：1,000円
講師：横浜美術大学 星と彫刻のプロジェクト

お面とカラフルキャンドルでハロウィンパーティー。

「ハロウィン」は万聖節の前夜祭で秋の収穫を祝い、悪霊を追い出すお祭り。カボチャやブタさんなど色々な型のお面に思い思いの色紙をちぎってはりつけ、毛糸で目や口を型取り、楽しいユニークな作品が出来上がりました。色々なカラーシートを手でちぎって粘土のように指でこねて、丸い口ウソクに張り付けた綺麗なキャンドルも出来上がりました。

VOLUNTEER REPORT
ボランティアレポート

レポーター 小笠原 タカコ

チャレンジプログラム

ハウス型ランタンでクリスマス

日時：11月25日(日)13:30～16:30
対象：小学生
参加者数：35名
参加費：1,500円
講師：豆腐谷正樹(会社員、造形愛好家)



思わず拍手！暗闇にきれいなハウス型ランタンが浮かび上がりました。

段ボールのような半透明のプラスチック板を組み立て、屋根や壁に絵や色付けをしたり、煙突から綿の煙を出したりと、子ども達は大忙し。窓を開け、色セロファンを貼って豪華なハウスをつくる子もいます。最後に豆電球をハウスの中に入れ、アトリエの電気を消すと、子ども達ばかりでなく、保護者からも思わず拍手が起こりました。

レポーター 鈴木 通弘

エントランスロビーの床には、釉薬を施したタイルが美しく敷かれています。地下1階の事務所に降りる階段壁面と2階ホール前のホワイエの壁は赤く塗り分けられ、エレベーターの扉は黄色く塗られています。JR 関内駅側には型钢サッシュで縦長に区切られた大きなガラス窓があり、正面入口の大窓と同様に外光を取り込んでいます。吹抜けの天井には、現在は節電のため間引かれています。ダウンライトが星のように散りばめられています。建物の内外を丹念に観察してみると、骨太にして繊細な細部の仕上げを随所に発見することができます。



左上：エントランスロビー（一部） 右上：2階展示室へ至る階段と手すり
左下：地下1階の事務室・アトリエに面する庭（サンクンガーデン）から撮影
右下：同庭に設置された照明

横浜市内の前川建築

横浜市内では公共建築を中心に7つの前川建築を、比較的まとまったエリア（中区、西区）で見ることができます（下記「市内の前川建築一覧」を参照）。市民ギャラリーをはじめとして、いずれも都市の発展とともに親しまれてきた施設です。周囲の環境に馴染み、くつろいだ雰囲気とあたたかみのある建物だけに、それと知らずに訪れていた方も多いのではないのでしょうか。また、外装の経年劣化に対するひとつの解決策であり、後期前川建築の特色ともいえる独自の「打込みタイル」構法にみられる職人との協働のほかにも、当時第一線で活躍した芸術家との協働を、これらの建物に見ることができます。例えば、横浜市教育文化センター・ロビーには竣工以来、彫刻家・流政之（1923年生まれ）による石彫《ワグマンに捧ぐ》（※4）が常設されています。また、県立青少年センター・ホールの緞帳（※5）は、日本画家・杉山寧（1909-1993）が原画のデザインを手がけています。中区役所の吹抜けロビー左手の壁画《ぱぱびびぼぼ（宇宙へのひろがり）》（1983年）は、画家・元永定正（1922-2011）によるものです。市内の文化施設とあわせて、モダニズム建築を巡る散策をしてみるのも楽しいですね。ちなみに、みなとみらい地区の横浜美術館（1988年竣工、89年開館）は、大学卒業後の1938年から41年まで前川事務所に在籍し、その後国内外で活躍し、日本を代表する建築家となった丹下健三（1913-2005）の設計によるものです。



流政之《ワグマンに捧ぐ》1974年、御影石



県立青少年センター・ホールの緞帳



横浜市教育文化センター（1974年竣工当時）
写真提供：新建築社 協力：前川建築設計事務所

【市内の前川建築一覧】

各項目は、建物名・竣工年・受賞歴の順に記した。
すべて横浜市内に現存（2013年2月1日現在）。

1. 神奈川県立図書館・音楽堂（1954年）
〔指名設計競技1等、昭和29年度日本建築学会作品賞受賞、第3回横浜建築コンクール入選〕
2. 神奈川県立青少年センター（1962年、2006年改修竣工）
3. 神奈川県婦人会館（1965年）
4. 神奈川県立青少年会館（1966年）
5. 横浜市教育文化センター（1974年）
〔昭和50年度神奈川県下建築コンクール最優秀賞受賞〕
6. 横浜市中区役所（1983年）
7. 横浜市中央図書館（1993年）

（※1）建築主／横浜市、1974年竣工、建築面積2,225㎡、延面積21,024㎡、階数2B-11、SRC造、設計協力者：流政之（彫刻）、佐藤亜士（絵画）。工期は足掛け4年。地下鉄、高速道路との競合工事とオイルショックによる建設資材の不足・高騰が重なり難工事となったが、当時の横浜市長・飛鳥田一雄によると「横浜における教育・文化活動の核的機能をここにおいて創造しよう」とした（日刊建設工業新聞「向上発展と創造の殿堂 横浜市教育文化センター」1974年7月5日）もので、1974年に待望の開館を迎えた。市民ギャラリーは、地下1階を収蔵庫、作品保管室、アトリエ、事務室、地上1～3階までを展示室としている。

（※2）東京帝大の1年先輩の牧野正巳（1903-1983）が、前川に先んじてコルビュジエのアトリエを目指し日本を発っていたが、航路を選んだため、鉄道経由の前川より遅れてパリに到着した。ほかにも、早稲田大出身の土橋長俊（1901-1959）が前川と同時期にコルビュジエのアトリエにいた。その後、坂倉準三（1901-1969）も前川の紹介でコルビュジエのアトリエに入所している。

（※3）前川國男著、宮内嘉久編「一建築家の信条」1981年、晶文社、pp.227-228

（※4）台座に後付けされたプレートには《ワグマン像》とある。

（※5）現在ホールに設置されている色鮮やかな緞帳は、2006年、建物の全面改修にともない1962年当時の緞帳を忠実に復元したもの。初代の緞帳は「文化の継承」を記憶に留めるため、一部がホワイエに展示されている。

GALLERY SCHEDULE 2013年2月～3月

横浜市民ギャラリー展覧会情報

開館時間：10：00～18：00（会期初日は午後からの場合があります）

休 館 日：3月12日（火）～31日（日）

※詳しくは中段をご参照ください。



1月29日（火）～2月3日（日）

- 1F BEAT NOW 展
油彩・水彩・日本画・水墨画・版画・写真・立体
- 2F 2013たんぼぼ写真会写真展 写真
- 3F AI 第15回華の墨絵会展 水墨画
- 3F AII 第2回豊栄会文化祭 油彩・水彩・写真・書・陶芸
- 3F B 第23回梨の会展 油彩・水彩・版画
- 3F C 第36回鐵門社学生書道展 書

2月4日（月）～9日（土）

- 2F K彩会水彩画展 水彩・静物・人物・風景
- 3F AI 神奈川独立燎の会展 油彩・その他平面
- 3F AII 希望が丘写真クラブ第15回写真展 写真

2月5日（火）～9日（土）

- 1F 第50回横浜市立中学校美術科教員展 サクレ展
油彩・日本画・彫刻・立体・陶芸・工芸
- 3F BC 第52回神奈川県高等学校校定時制通信制生徒作品展
油彩・水彩・日本画・水墨画・版画・写真・書・彫刻・立体・陶芸・工芸・手芸・その他平面

2月10日（日）～15日（金）

- 1F 横浜市シルバー人材センター第29回創作展
油彩・水彩・日本画・水墨画・写真・書・彫刻
- 2F 第9回公募たぶろう横浜展 油彩・水彩・日本画
- 3F 第52回 神奈川旺会展
油彩・水彩・日本画・版画・アクリル画・バステル画

2月16日（土）～21日（木）

- 1F 2012年度横浜国立大学 教育人間科学部 美術科卒業制作展 油彩・彫刻・立体・工芸
- 2F 横浜国立大学 教育人間科学部 書道ゼミ卒業制作展 書
- 3F AB 第33回公募静雅書展 書
- 3F C 第8回彩の会風景画展 油彩、水彩、日本画

2月22日（金）～27日（水）

- 1F 第36回やまゆり会和紙ちぎり絵合同作品展
その他平面
- 2F 写真「どんぐり」写真展 写真
- 3F AI 横浜・大和合同文化書道展 書
- 3F AII 第4回蒼爽会展 油彩
- 3F B 第17回神奈川書友展 書
- 3F C 第32回玉藻書道会創作展 書

2月28日（木）～3月5日（火）

- 1F 第20回現代南宋画記念展 現代南宋画
- 2F 東京理科大学同窓美術同好会・ながつきの会合同展
油彩・水彩・水墨画
- 3F 神奈川区文化協会20周年記念祭 油彩・水彩・日本画・水墨画・写真・書・立体・陶芸・工芸・手芸・押花

3月6日（水）～11日（月）

- 1F 第31回神奈川県写真作家協会展
テーマ「旅は終わらない」 写真
- 2F 秋香会日本画展 日本画
- 3F AB 平成24年度 絵画教室「卒業生作品展」
油彩・水彩・バステル
- 3F C 第45回主体美術神奈川作家展 油彩

休館中の横浜市民ギャラリーの運営について

【今後のスケジュール】

- ・2013（平成25）年3月11日（月）まで営業
- ・2013（平成25）年3月12日（火）以降は、移転準備のため閉館
- ・2013（平成25）年3月18日（月）～31日（日）は引越作業のため、お問合せは下記まで
横浜市文化観光局文化振興課 TEL 045-671-2289（受付時間は平日9：00～12：00、13：00～17：00）
- ・2013（平成25）年4月1日（月）～2014（平成26）年秋口：仮事務所にて営業
（ただし、展示室・アトリエ室の運営はいたしません）

仮事務所：3月上旬以降、ホームページ等でお知らせします。

TEL 045-224-7920（4月1日～、受付時間は平日10：00～17：00）

※施設代表メールアドレス、ホームページアドレスは、現横浜市民ギャラリーに同じです。

今後のスケジュールや仮事務所についての詳細情報は、横浜市および横浜市民ギャラリーのホームページ、広報物等でご案内していきます。

【横浜市ホームページ 横浜市民ギャラリー移転関連】

<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/bunshin/management/iten/>

編集後記

今号は関内からお届けする最終号。3回にわたって掲載してきた市民ギャラリーの歴史を振り返るシリーズはお楽しみいただけましたでしょうか。休館・移転にともない、「アートヨコハマ」も一旦お休みいたします。ご愛読ありがとうございました。またお会いしましょう！

横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

開館時間：10:00-18:00 休館日：3月12日（火）～31日（日）

※4月1日（月）以降は仮事務所にて営業

〒231-0031 横浜市中区万代町1-1 横浜市教育文化センター内

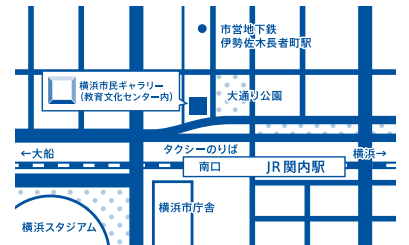
TEL：045-224-7920 FAX：045-224-7928

Eメール：ycag@yaf.or.jp <http://www.yaf.or.jp/ycag/>

編集発行：横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

発行日：2013年2月1日

© Yokohama Civic Art Gallery, All rights reserved





横浜バロック関内サロン

～アートと音楽が会う場所～

演奏会つき展覧会を催しませんか？

開館時間 12:00 ～ 18:00

音楽会付き貸ギャラリー

(壁面 約20メートル)

ランチタイムコンサート

毎週水曜日 12:15 ～ 12:50

お茶つき 1,000 円

3 月 上野健一郎展

内田正泰はり絵展卒寿記念シリーズⅢ

4 月 鈴木初音写真展 横浜バロック室内合奏団の素顔

原本妙子展

5 月 ガリバー展 はがき絵コンクール作品募集中

締め切り 5 月 6 日



〒231-0048 横浜市中区蓬萊町 2-6-2 ライオンズマンション関内第 3-103

Tel & Fax 045-263-4127 yokohama.barock@gmail.com

JR 関内駅北口より 3 分。厳島神社裏

吉田町画廊企画

はじめよう銅版画！！

申し込み日より 3 ヶ月間工房を使い放題で、

料金 10,000 円 (通常 1 コマ 1,500 円) 製版のやり方から丁寧に指導いたします。

■開催日時

毎週火曜日 10:00 ～ 12:30 13:00 ～ 15:30 毎週土曜日 13:00 ～ 15:30 16:00 ～ 18:30

ご予約、お問い合わせはこちらまで

※はじめよう銅版画へのご参加はお一人 1 回限りです。その後のご参加は通常料金になります。

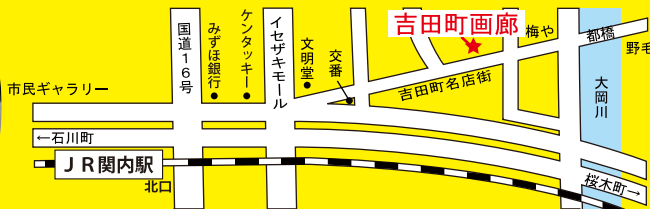
吉田町画廊

Tel 045-252-7240

〒231-0041 横浜市中区吉田町 5-14

yoshidamachigallery21@gmail.com

ホームページ yoshidamachi.net



JR 関内駅北口より徒歩 5 分程度です。

みなとみらい線「馬車道駅」から徒歩 2 分。好立地 & 手頃な料金！

県民共済ギャラリー

白を基調とした壁面。

LED 照明。

明るい展示空間は、
作品がよく映えます。

平面から立体まで、
スマートに展示できます。

利用料金

7 日間 77,000 円 (税込み)

(ロビー壁面併用の場合)
プラス 7,000 円

※利用の条件は、主催責任者が
「神奈川県県民共済生活協同組合
の組合員」であること



問合せ・資料請求

045-201-8226

10:00～17:00 (土日祝休)

横浜市中区元浜町 4-32

神奈川県民共済

検索



壁面：ギャラリー 19.4m・ロビー 14.0m / 床面積：36.9m ※目安として、10 号サイズの絵をロビー壁面併用で 30 枚程度展示することが可能 (展示方法により異なります)